

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成26年度第2回）議事要旨

1. 日時 平成26年11月27日（木）14:00～15:55
2. 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 小笠原議長
片岡、横矢、高比良、太田、常盤の各学内委員
志村、宮寫、矢嶋の各学外委員
欠席者 石井、井上、佐々木、CASSIMの各学外委員
出席監事 二宮監事
陪席者 尾原教育研究支援部長
奥田教育研究支援部次長
竹下、森川、桑原、樋口、上坂の各課長
植田研究協力課研究企画係長（井上研究協力課長の代理）
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成26年度第1回）議事要旨（案）
資料2 奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について
資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程等の一部改正について
資料4 平成26年度収入・支出予算（案）（補正予算）
資料5 平成26年度目的積立金の配分について（案）
資料6 本学の主な動き（平成26年6月～11月）
資料7 研究活動上の不正行為に関する調査結果について
資料8-1 スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」
資料8-2 平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」申請・採択状況一覧
資料8-3 スーパーグローバル大学創成支援「タイプB」「先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築」
資料9-1 平成27年度予算の概算要求における運営費交付金の状況
資料9-2 「平成27年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」（平成26年7月25日閣議了解）の骨子
資料9-3 平成27年度文部科学関係概算要求のポイント
資料10 平成25事業年度財務諸表の承認について（通知）
資料11-1 平成25年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
資料11-2 平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果等について
参考資料1 国立大学法人等の平成25年度評価結果について
参考資料2 機能強化に向けた取組状況一覧
参考資料3 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成25年度に係る業務の実績に関する評価の概要
参考資料4 国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況（平成25年度）
資料12 平成26年度外部資金の受入れについて
資料13 教員の年俸制及びクロス・アポイントメント制度等の導入について（概要）

机上資料 財務報告書
参考資料 奈良先端大の概要と特色

5. 議 事

(前回議事要旨の確認)

資料1の前回(平成26年度第1回)の議事要旨(案)について、原案どおり承認された。

(審議事項)

(1) 奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について

片岡委員から、資料2に基づき、奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(主な意見等は、次のとおり)

・特別学修生制度は、優秀な学生を集めるために有効な制度であると考えられる。

(2) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程等の一部改正について

高比良委員から、資料3に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員給与規程等の一部改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(3) 平成26年度補正予算の編成について

高比良委員から、資料4に基づき、平成26年度補正予算の編成について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(4) 平成26年度目的積立金の配分について

高比良委員から、資料5に基づき、平成26年度目的積立金の配分について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(平成26年6月24日～平成26年11月26日)

議長から、資料6に基づき、平成26年6月24日から平成26年11月26日までの本学の活動状況等について報告が行われた。

(2) 研究費の不正使用と関係者の処分等について

議長から、資料7に基づき、研究費の不正使用と関係者の処分等について報告が行われた。

(3) スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」について

議長から、資料8-1～3に基づき、スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された旨の報告が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

・大学のレーティングは、研究者の発想や研究方法そのものを歪めてしまい、成果の出やすい研究に偏るなど、基盤的な教育研究や学術本来の在り方に悪影響を及ぼすことが懸念される。

- ・国からの要請や資金獲得面から、短期的なインパクトのある提案を示す必要があるが、これらの研究だけでなく、長期的又は基盤的な研究も大学として重要であることから、これら研究のバランスに配慮した大学運営を行っている。
- ・国がミッションごとに大学をグループ化し、それら大学とその分野に合致する企業とを集約して研究資金を投入し、知的財産の取扱いなどの枠組みを作るなど、国主導で研究環境を整えることが、欧米諸国に遅れをとった日本の研究開発力を取り戻す方法であろう。
- ・企業によっても、大学に基礎研究の推進を期待する企業と応用研究の推進を期待する企業があり、学長のガバナンスの下でリーダーシップを発揮し、双方の推進に配慮した大学運営を行うことが重要である。

(4) 平成27年度概算要求の状況について

高比良委員から、資料9-1～3に基づき、平成27年度概算要求の状況について報告が行われた。

(5) 平成25事業年度財務諸表の承認について

高比良委員から、資料10に基づき、平成25事業年度財務諸表の承認について報告が行われた。

(6) 平成25年度財務報告書について

高比良委員から、机上資料に基づき、平成25年度財務報告書について報告が行われた。

(7) 平成25年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

横矢委員から、資料11-1～2に基づき、平成25年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告が行われた。

(8) 平成26年度外部資金の受入れについて

横矢委員から、資料12に基づき、平成26年度外部資金の受入れについて報告が行われた。

(その他)

(1) 教員の年俸制等について

議長から、資料13に基づき、教員の年俸制及びクロス・アポイントメント制度等の導入について概要説明が行われた。

以 上